

渋谷区の小学校と企業の 合同環境文化祭



「GX SHIBUYA フェス 2025」報告書

「GX SHIBUYA フェス 2025」概要	1 - 4
小学校と企業のコラボレーション	5 - 14
トークセッション・コラボカフェ	15 - 18

「GX SHIBUYA フェス 2025」概要



開催趣旨



「GX SHIBUYA フェス」は、渋谷の小学生と企業と一緒に作る合同環境文化祭です。地球のこと、まちのこと、未来のことを“楽しく体験しながら学びます”。

企業がチャレンジしている取り組みを子どもたちが自分の目線で考え、トリビアとして紹介。コラボブースを体験したり、環境なぞなぞを解きながら「みんなで力を合わせれば実現できる未来」を見つけていただけたら幸いです。

「GREEN XROSSING SHIBUYA」プロジェクトのあゆみ

「GREEN XROSSING SHIBUYA」プロジェクトは、渋谷を訪れる人に「サステナブルな国際都市 SHIBUYA」を世界に発信することを目的に、2024年3月に一般社団法人渋谷駅前エリアマネジメントと一般社団法人SWITCHのあいだで協定を締結しました。

月1～2回のペースで定例ミーティングを開催し、企画から実施まで対話をベースに共創しています。

現在、渋谷駅周辺の巨大サイネージで環境先進事例のアニメーション動画を週15,000回以上放映しているほか、2024年8月には「渋谷で感じる海」と題して、プランクトンをテーマにしたプロジェクトを実施。生態系におけるプランクトンの役割や川を通じた都市と海のつながりを学ぶワークショップを渋谷区内の小学校で開催し、廃棄される漁網を回収し作られた布を使い、児童と制作した全長10メートルの循環型アートを渋谷駅地下広場に展示するなど、多くの人に都市と海のつながりを知らせる機会を提供しました。

そして2025年「渋谷で感じる海」の進化版として小学校と企業のコラボレーションの規模を拡大し、リテラシー向上と行動変容を目指したのが「渋谷区の小学校と企業の合同環境文化祭～GX SHIBUYA フェス」です。

「GX SHIBUYA フェス」パートナー

2024年の「渋谷で感じる海」のメンバーに新しい仲間が加わり、渋谷区の小学校7校と10の企業・団体で実施しました。

主催



一般社団法人 SWITCH

共催



一般社団法人
渋谷駅前エリアマネジメント

協賛



株式会社日立製作所



株式会社 明治



日本電気株式会社

後援

東京都環境局



YKK AP株式会社



東急不動産株式会社



東急株式会社

協力



三菱UFJ銀行



渋谷区立
臨川小学校



渋谷区立
猿楽小学校



渋谷区立
神南小学校



渋谷区立
加計塚小学校



渋谷区立
千駄谷小学校



渋谷区立
長谷戸小学校



渋谷区立
常盤松小学校

小学校を訪問し、企業が環境のために取り組んでいる活動やテクノロジーについて紹介。レクチャーの後の、グループワークでは、大人が子供と同じ目線で対話し、子供からのさまざまな質問にお答えいただきました。

日時	企業	小学校	児童数
9月 2日(火)	日本電気株式会社	加計塚小学校 3年生	53名
	東急不動産株式会社	猿楽小学校 4年生	52名
9月 3日(水)	渋谷駅前エリアマネジメント	神南小学校 4年生	25名
	SWITCH	臨川小学校 6年生	53名
9月 6日(土)	YKK AP株式会社	常磐松小学校 4年生	18名
9月 8日(月)	日立製作所	臨川小学校 6年生	53名
9月 9日(火)	東京都環境局	神南小学校 4年生	25名
9月11日(木)	三菱UFJ銀行	神南小学校 4年生	25名
	株式会社 明治	長谷戸小学校 4年生	41名
9月12日(金)	東急株式会社	千駄谷小学校 5年生	57名



NEC 阿部様

NEC 阿部様



東急不動産 松本部



YKK AP 三浦様



日立製作所 池ヶ谷様



MUFJ 隔本様



明治 塚本様



車急 袖田機



東京都 清水様

出前ワークショップで学んだことを他の小学校にも共有し、みんなで環境リテラシーを向上するために、どんな情報をトリビアとして紹介するかグループワークで検討。投票で選ばれた3つのトリビアがイベント時に参加者全員に配布する「環境なぞなぞBOOK」に掲載されました。



4年生がみんなに伝えたいこと

1 アルミは国産より
1400倍も
軽くて丈夫です。

アルミは軽量の1400倍も
強度を有する。
アルミの足と外の骨が
あつたうしろに部屋の中に入
てしまう。

2 外国は国産より丈夫で、
価格はアルミより安い。

国産では「アルミ」が普及
してきているけど、国産では
鉄鋼の重さの「10倍重」が一
般の人なんだって！

3 鉄鋼が劣化で
アルミに置き換
えたい。

鉄鋼の劣化で劣化が発生して
、劣化を減らすためにアルミ
を、劣化の劣化とアルミの
フンはぜんぜん劣化とアルミ
の劣化はぜんぜん劣化、鉄鋼は
劣化しない。

1400倍

アルミ

鉄鋼



国産



鉄鋼

イベント当日



開催日時 | 2025年9月18日(木)・9月19日(金)

開催形態 | 対面開催

参加者合計 | 小学生数 345人＋一般参加者 221名
合計 566名

会場 | 渋谷サクラステージ3階 BLOOM GATE

タイムテーブル | 10:00～ 渋谷区の小学校7校が学年単位で参加
14:30～ 企業と一般からの参加
17:30～ トークセッション&交流会

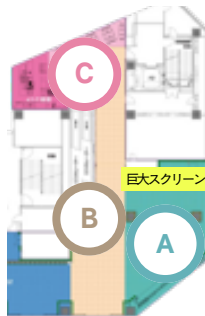
C・参加賞交換コーナー
・明治コラボカフェ



B・GX渋谷フェス紹介
・寄せ書きコーナー



A・ブース展示
・巨大スクリーン



コラボ3 イベント当日、スタンプラリーをしながらブースめぐり

9月18日・19日のイベント当日は、小学校が学年単位で来場。「環境なぞなぞBOOK」が全員に配られ、スタンプラリー形式で6つのブースを巡りました。

各ブースには企業担当者が常駐。環境なぞなぞからスタートし、実験・ゲーム・対話などブースそれぞれの個性を活かし、体験型・対話型で来場者に解説を行いました。コラボ企業のブース運営を小学生が手伝いする場面もありました。会場は活気にあふれ、スタンプラリーが完成した子供たちはゴールで企業からのプレゼントを受け取り、満足していました。



コラボ4 「寄せ書きボード」で来場者にメッセージを発信

出前ワークショップの最後に、児童一人一人がワークショップを通して気づいたこと、自分でできる環境アクションをメッセージカードに宣言しました。9月18日・19日のイベント会場に寄せ書きボードを設置し、すべてのメッセージカードを掲示しました。

来場した小学生は自分のメッセージを見つけて喜んだり、他の小学校の児童のメッセージを読んで刺激を受けているようでした。



コラボ5 「トークセッション」で産官学がつながり対話

イベントの2日間、いずれも17:30～19:00にトークセッションを開催しました。

19日は渋谷のエリアマネジメントから、19日は渋谷区教育委員会から登壇いただき、産官学の環境専門家と対話を深めました。会場からも活発に質問があがり、和やかで活気あるセッションとなりました。

9月18日

都市だからできる
Green Transformation



東京大学大学院
工学系研究科
都市工学専攻教授
小泉 秀樹 氏



一般社団法人
渋谷駅前エリアマネジメント
事務局長
清水 寛之 氏



一般社団法人
SWITCH
代表理事
佐座 マナ
(ファシリテーター)

9月19日

小学生 x 企業から広がる
GXの可能性



東京大学大学院
農学生命科学研究科
教授
安田 仁奈 氏



渋谷区教育委員会事務局
教育指導課
指導主事
市川 勝利 氏



環境省大臣官房
環境教育推進室
指導主事
黒部 一隆 氏



一般社団法人
SWITCH
代表理事
佐座 マナ
(ファシリテーター)

コラボ6 コラボカフェ

イベントの2日間、カフェスペースを貸し切り、コラボカフェを実施しました。

資源としてのカカオの活用コーナーでは、チョコレートの素材として使われなかったカカオの果肉や種から作られた、容器や衣類、プラスチック製品を展示。森を育てながらカカオを栽培するアグロフォレストリ農法の紹介とその農法で育ったカカオで作ったチョコレートの試食も行いました。併設のカフェでカカオのオリジナルドリンクも特別販売しました。



アグロフォレストリー農法

アグリカルチャー
(農業)

フォレストリー
(林業)



小学校と企業のコラボレーション

- 加計塚小学校×NEC
 - 猿楽小学校×東急不動産
 - 常磐松小学校×YKK AP
 - 臨川小学校×日立製作所
 - 長谷戸小学校×明治
 - 千駄谷小学校×東急
-
- 神南小学校×渋谷駅前エリアマネジメント
 - 神南小学校×東京都環境局
 - 神南小学校×三菱UFJ銀行

9月2日(火) 出前ワークショップ

出前ワークショップでは、使った後のさまざまなプラスチックを持ち寄り、どんな分け方をすれば資源になるかを学びました。



- さまざまなプラスチックごみを「ペットボトル」「プラスチック」「可燃ごみ」の3つに分別し、資源を循環させるゲーム
- 資源ごみはリサイクル施設で手作業で分別されています。
- きれいに洗って出せば、新しいプラスチックに生まれ変わらせることができます。

環境なぞなぞ

渋ハチくんが資源回収の日に3種類のプラスチックごみを出しました。資源として使えたのはどれでしょう？



A 飲み残し B ベタベタ C 空っぽ

答え C 空っぽ



ペットボトルはラベルをはがして空っぽにして出そう！



飲み残しや汚れがあると燃えるごみになってしまいます

3年生がみんなに伝えたいこと

1 よこれているとリサイクルできず燃やされて温暖化につながる

2 飲み残しのないきれいなペットボトルを回収に出そう
リサイクル施設
作業員さんが手で分別

3 ペットボトルとキャップとラベルを分けるとリサイクルしやすい

9月18日・19日 サクラステージ/コラボブース

イベント当日のブースの様子



来場者に投票を実施



私たちはどんなプラスチック製品を購入すべきでしょうか？

安価な通常品
(非リサイクル) **106票**

安価で黒点がある
リサイクル品 **74票**

高価で綺麗な
リサイクル品 **94票**

コラボブースの企業担当者からのコメント

NEC

Orchestrating a brighter world

「情報を伝える技術(ICT)」を使って、プラスチックのリサイクルにチャレンジしている会社

私たちはプラスチックの情報をつなぐ場づくりに取り組んでいます。リサイクルの推進には子どもたちを含む消費者の理解と協力が欠かせません。今回、皆さんは楽しみながらも真剣に学び、考えてくれました。今後も地球のためにできることを続けてもらえたら嬉しいです。



先生からのコメント

児童たちは、ごみとして捨てられるプラスチックがどのようにリサイクルされるのかを分かりやすく学びました。また、身近なプラスチックを分別することを通して、「洗ってから分別して捨てる」という意識も高まりました。資源を大切にするために自分たちにできることを話し合い、今後の活動に取り組んでいきたいと考えています。

9月2日(火) 出前ワークショップ

出前ワークショップでは、都市でも屋上を緑化したり、在来種を植えることで生物多様性をゆたかにできることを学びました。



- ・代官山の施設内にあるさまざまな植物を在来種と外来種に分けるゲーム
- ・TENOA代官山では30種類以上の在来種を育てています。花や実を目当てに在来種の虫や鳥もやってくるようになりました。
- ・都市でも生物多様性を実現することができま
す。渋谷に緑を増やし、生き物がすみやすい環境をつくっていきましょう。

環境なぞなぞ

シジュウカラがすみのために
何メートルごとに緑が必要でしょう？



答え A 200メートル

シジュウカラが都市で暮らすためには、200メートルごとに緑が必要です。以前は観察されなかったシジュウカラですが、都市緑化が進んだことで、近年は渋谷や原宿でも観察されるようになりました。

4年生がみんなに伝えたいこと

1

シジュウカラは200メートル先に森が必要
都市の生物多様性を確認することができる目安
になる生き物の一つがシジュウカラです。

2

在来種は昔からその土地に住んでいる
生き物

古来から生えていた植物を植えると、それを好む虫がやってきて、その虫を食べる鳥も戻ってきます。

3

都市にも木を植えて地球温暖化を
ゆるやかに

都市のみどりは少ないけれど、ビルの屋上を緑化したり、道路脇に緑地をつくることで、気温を下げたり、生物多様性をゆたかにできます。

9月18日・19日 サクラステージ/コラボブース

イベント当日のブースの様子



来場者に投票を実施



行ったことがある場所に印をつけてね

東急プラザ原宿
(ハラカド)
91票

東急プラザ参道
(オモカド)
40票

渋谷サクラ
ステージ
117票

代々木公園
(BE STAGE)
55票

東急プラザ渋谷
(渋谷フクラス)
51票

フォレストゲート
代官山
76票

コラボブースの企業担当者からのコメント

東急不動産 緑をふやすためにチャレンジしている会社

東急不動産はビルの屋上を緑化したり、建物のまわりにな
来種の植物を植えて、多様な生き物が暮らせる街づくりに
取り組んでいます。

アゲハ蝶をつかまえられたり、カマキリに出会ったり、都
市部でも緑や生物に触れ合えるよう、みんなで環境をつく
っていきましょう。

先生からのコメント



児童は3年生の社会科で渋谷区の屋上緑化の取り組み
について学んでいます。今回さらに生物多様性
について学び、シジュウカラが住める環境づくり
が温暖化対策にもつながることを知りました。身
近な自然を守る工夫が人にも生物にもやさしい街
をつくることを実感し、地域の環境にさらに関心
をもつきっかけとなるイベントになりました。

9月6日(土) 出前ワークショップ

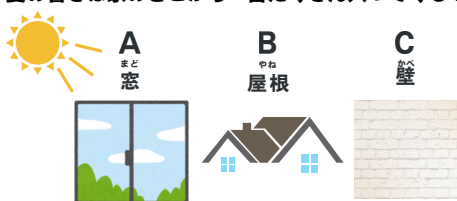
出前ワークショップでアルミ窓と樹脂窓の模型にドライアイスに乗せて熱伝導の実験をしました



- ・アルミ窓と樹脂窓の断面模型にドライアイス置き、窓の素材によって部屋への熱の伝わり方が違うことを紹介。
- ・1層のコップと2層のコップに氷水を入れ、2層のコップは結露せず、熱も外にもれないことを紹介。
- ・断熱効果の高い窓でエアコンの効きがよくなり、ダニやカビから暮らす人を守ります。

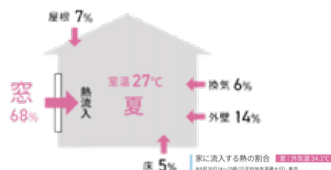
環境なぞなぞ

夏の暑さは家のどこから一番たくさん入ってくる？



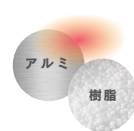
答え A 窓

暑さの70%、寒さの50%が窓から入ってくる。
断熱性の高い窓に変え
と、電気も節約できるよ！



4年生がみんなに伝えたいこと

1



アルミは樹脂より1400倍も熱を伝えやすい

アルミは樹脂の1400倍も熱を伝えやすい。アルミの窓だと外の暑さがあっという間に部屋の中に入ってしまう。

2



外国は樹脂窓が多く、日本はアルミ窓が多い

日本では「アルミ窓」が普及しているけど、欧米では断熱性の高い「樹脂窓」が一般的なんだって！

3



結露がカビやダニの原因に

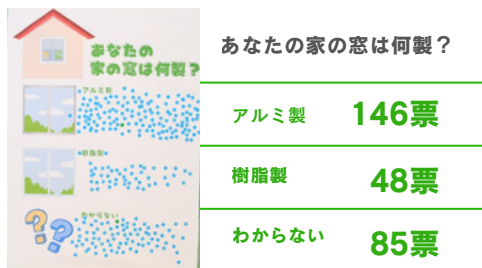
結露のせいでカビが発生して、カビを食べるダニがふえる。カビの胞子とダニのフンはぜんそくやアトピーの原因になるから、結露はイヤだね！

9月18日・19日 サクラステージ/コラボブース

イベント当日のブースの様子



来場者に投票を実施



コラボブースの企業担当者からのコメント



「窓」で人と地球にやさしい
おうちづくりを応援している会社

暑い夏や寒い冬を快適で健康的に過ごすためには、冷房や暖房がどうしても必要です。
出来るだけエネルギーを使い過ぎないためには、窓がとても重要なという事を実験とおして勉強してもらいました。この授業をきっかけに皆さんが窓に関心を持ってくれたらうれしいです。

先生からのコメント



授業やGX SHIBUYAでの活動を通して、子供たちは環境問題を自分ごととして捉え、主体的に考えることができていました。学校公開でこの授業を行ったため、「保護者も一緒に考えるきっかけが生まれ、家庭でも話題が広がった」との感想も聞きました。なにより楽しみながら課題意識をもてたことに、深い意義を感じました。

9月8日(月) 出前ワークショップ

出前ワークショップでは、大停電を想定し、限られた電気を小学校内でどのように使うべきか、グループごとに具体的に考えました。



- 1人3枚、電気コインが配られ、それを小学校のどこで何のために使うか（例：体育館にみんなを集めてエアコンで涼む）、学校の地図を見ながら作戦会議。最終的にはグループごとに発表してもらいました。
- 電気は無限ではありません。特に地球にやさしい電気には限りがあること、使う量と作る量のバランスの大切さについて紹介しました。

環境なぞなぞ

渋谷区で使っている電気はどこで作っているでしょう？



答え C 全国

東京都は面積がせまく、たくさんのエネルギーを作る場所がないので全国から送られている。



6年生がみんなに伝えたいこと

1



5年連続「化石賞」受賞

日本は二酸化炭素排出量世界5位。不名誉な「化石賞」を5年連続で受賞してしまいました。化石燃料にたよらない発電に変えていきましょう！

2

「適応」と「緩和」両方が大事

適応とは？
熱中症対策など暑さに
対応すること

緩和とは？
大気中のCO₂をへらし、温
暖化をゆるやかにすること

3



電気は無限じゃない節電しよう！

エネルギーをたくさん使うと地球温暖化を加速してしまいます。みんなで節電して地球温暖化をゆるやかにしましょう。

9月18日・19日 サクラステージ/コラボブース

イベント当日のブースの様子



来場者がフォトブースで宣言

来場者がフォトフレームで写真撮影。



コラボブースの企業担当者からのコメント

HITACHI

日立は、身近な家電品はもちろん、ビジネスを支える情報や通信のしくみ、電力や交通、水道といった社会インフラのしくみまで、あらゆる分野に広がっています。

社会を支える大切なしくみをつくる、それが日立の仕事です。今後、コンセントに電源プラグをさすとき、その先にある電気の仕組みについて思い出してもらえると嬉しいです。電気とは？エネルギーとは？ぜひ考えてみてください。

先生からのコメント



日立製作所さんのワークショップの内容が、「臨川小が停電したら、限られた電気コインをどこにどう使うか」という設定でおこなったことで、より主体的に電気について考えることができました。これをきっかけに自分たちが地球のためにできることなど、学びを広げていきたいと思っています。

9月11日(木) 出前ワークショップ

出前ワークショップでは、カカオはフルーツでチョコレート以外にも原料としても多様に活用できることや、アグロフォレストリー農法について学びました。



- 模型を用いてチョコレートの原材料となるカカオはフルーツで、チョコト以外のさまざまな原料にできることを紹介
- アグロフォレストリー農法をクイズ形式で説明
- 今まで廃棄されてきたカカオの部分アップサイクルしているサンプルを紹介

環境なぞなぞ

カカオを栽培しながら森を育てるために、いっしょに植えている植物はどれでしょう？



A バナナ



B こしょう



C アサイー

答え 全部！

カカオ・アサイー・コショウ・バナナを組み合わせることで、森とゆたかな土壌を育てながら、さまざまな収穫をすることができます。

「森をつくる農業」で農家の生活も安定します。

4年生がみんなに伝えたいこと

- 1 カカオ 1 個でチョコレートを作るのに2枚しか作れない
- 2 カカオは機械を使わず1つ1つ手で収穫している
- 3 子供も動いてカカオを探っている

9月18日・19日 サクラステージ/コラボブース

イベント当日のブースの様子



来場者がフォトブースで宣言

カカオチョコレート以外にどんなものを作ってほしい？

コメント
紹介

コメント
紹介

コメント
紹介

コメント
紹介

コメント
紹介

コメント
紹介

コメント
紹介

コメント
紹介

コラボブースの企業担当者からのコメント

「うらは、カカオ。」 カカオに関わる全ての人を笑顔にする会社



みなさまに実際に見て、触って、カカオの新しい可能性を知っていただく機会をいただけたこと、とても嬉しく思います。当社は、2022年3月より「ひらけ、カカオ。」をスローガンに、カカオの新しい価値創造に挑戦してきました。カカオに関わる全ての人々が、もっと笑顔になれるように、これからも挑戦を続けていきます。

先生からのコメント



チョコレート作りで捨てられるカカオを再利用し、カカオの森を育てるなど、明治の皆さんが様々な挑戦を続けていることを知りました。地球環境を守るために、企業が熱い情熱をもって日々取り組んでいる姿は、子供たちにとって素晴らしいお手本でした。こうした姿を見せてくださったことに、心から感謝しています。

9月12日(金) 出前ワークショップ

出前ワークショップでは、CO₂を出す乗り物はどれでしょうクイズや、CO₂をへらす行動クイズで楽しく学びました。



- ・乗り物の種類で一人当たりのエネルギー使用量が異なることをクイズ形式で紹介
- ・エネルギーを作る時にCO₂を出す量が少なくても再生エネルギーで動く電車もある
- ・もともと走っている電車やバスを利用すれば、自分のために別のエネルギーを使わなくても済む

環境なぞなぞ

100人が移動するとき、CO₂排出が少なくても移動方法はどれでしょう？



A 電車



B 飛行機



C 自動車

答え A 電車

電車は大勢の人を少ないエネルギーではこぶ、すぐれた移動手段です。

5年生がみんなに伝えたいこと

1



再エネで動かす乗り物にのろう！

出かける時は、自然の力で作られたエネルギーで走る乗り物を選ぼう！

2

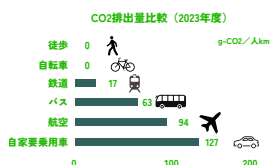
もともと走っている交通機関がオススメ

乗り物にのるときは、一人当りに使うエネルギーが少ない方を選ぼう！その方がCO₂排出量も少ない。

3

電車はCO₂排出がとても低い

電車は飛行機や自家用車よりもCO₂排出量がとても少ない。電車に乗るだけで環境に貢献できるよ！



9月18日・19日 サクラステージ/コラボブース

イベント当日のブースの様子



来場者がフォトブースで宣言



渋谷の街に落ちているごみを無くすには？

コメント
紹介

コメント
紹介

コメント
紹介

コメント
紹介

コメント
紹介

コメント
紹介

コメント
紹介

コメント
紹介

コラボブースの企業担当者からのコメント



まちづくりを通して、
みんなの幸せをつくる会社！

日々の移動と環境の繋がりをテーマに、子どもたちと未来の暮らしを考える貴重な時間となりました。これからも人と環境に優しいまちづくりを進めていきたいと思います。



総合的な学習の時間（シブヤ未来科）で、「フードロス」について学習をしています。今回、環境について学ぶ機会をいただき、電車利用と同じように、食べられる分を残さず食べることもCO₂の削減につながると教えていただきました。当日のイベントでは、他校の取り組みについて学ぶことができ、充実した時間になりました。

9月3日(水) 出前ワークショップ

出前ワークショップでは、渋谷での再生エネルギーの取り組みとそれによって温暖化をゆるやかにできることを学びました。



- ・ハチ公前のSHIBU HACHI BOXは100%再生可能エネルギーだけで運営している
- ・都市でたくさんのエネルギーや資源を消費しているので、みんなで環境のために取り組むことが大切。

環境なぞなぞ

ハチ公前にあるSHIBU HACHI BOXは
どんな電気を使っているでしょう？



A 非再生可能エネルギー



B 再生可能エネルギー

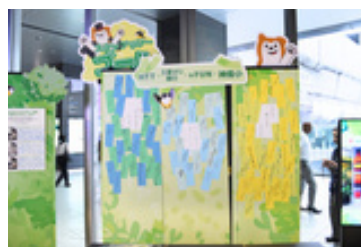
答え B 再生可能エネルギー

水、太陽光、風、地熱など。CO₂排出量が少なく、エネルギーがなくなる心配がありません。
火力発電や原子力発電は、有限な資源を使って発電しており、使い続けるとその資源はなくなってしまいます。

ハチ公も
願っているよ
リサイクル
神南小 四年生の作品

9月18日・19日 サクラステージ/コラボブース

イベント当日のブースの様子



担当者からのコメント



「渋谷に住む人、訪れる人、年齢や性別、職業、国籍に関係なく、渋谷が世界一だと思える人を増やすために、「遊び心で渋谷を動かせ」を合言葉に、渋谷らしさを守りながら、渋谷を魅力的な街に変える活動をしています。」

SHIBU HACHI BOX



先生からのコメント

子どもたちは、渋谷のまちで行われている環境への取り組みを実際に学び、自分たちの生活とつなげて考えることができました。国語科の学びでは川柳づくりに挑戦し、「環境」への思いを五・七・五で表現。学びを言葉に変えることで、伝える力と想いの深まりを感じました。

9月9日(火) 出前ワークショップ

出前ワークショップでは、東京都のHTTについて紹介し、小学生でも電気の使用量を減らすために簡単にできることがいろいろあることを学びました。



- 電気の使用を「へらし」電気を「つくり」電気を「ためる」HTT活動を東京都は進めています。
- 子供にもできることがあります。
- シャンプーの後、髪をよくかわかしてからドライヤーすると節電になります。

環境なぞなぞ

4年生のNo.1作品



木を植える
暑さをへらす
涼しいね
神南小 四年生の作品

9月18日・19日 サクラステージ/コラボブース

イベント当日のブースの様子



担当者からのコメント



地球温暖化をふせぎ、必要なエネルギーを安定的に確保するために
電力を<H>へらし・<T>つくる・<T>ためる>

気候変動という少し難しいテーマでしたが、みんなが川柳を通して真剣に考えてくれて、とても素敵な時間になりました。学んだことや感じたことをおうちの人やお友だちにも話してみてください。そして、地球のためにできることから少しずつ行動していきましょう。

先生からのコメント



子どもたちは、東京都環境局の方から電気を「へらす・つくる・ためる」活動について学び、身近な節電の工夫を考えました。国語科では学んだことを川柳で表現し、環境への思いを言葉に込めました。日常の中で行動につなげようとする姿に大きな成長を感じました。

9月11日(木) 出前ワークショップ

出前ワークショップでは、銀行はお金を預かるだけでなく、地球環境のための新しい技術が社会に早く普及するよう、ファイナンスの面からサポートしていることを学びました。



- ・ 銀行は地球環境のためにがんばっている会社にお金を貸して応援します。
- ・ 牛のフンからエネルギーを作ったり、天ぶら屋さんの油が飛行機の燃料にする会社のことも応援しています。

環境なぞなぞ



地球にやさしい天ぶら屋さんは使った後の油をどうしているでしょう？



A 捨てる



B ロウソクにする



C 燃料にする

答え C 燃料にする

MUFGは、全国239か所の銀行支店・本部ビル・寮・厚生施設の食堂から排出される廃食用油（年間約22,000リットル）をとして再資源化。主に航空業界のカーボンニュートラル実現に貢献します。

4年生のNo.1作品

うしのふん
でんきにかわり
やくにたつ
神南小 四年生の作品

9月18日・19日 サクラステージ/コラボブース

イベント当日のブースの様子



企業担当者からのコメント



お金のことだけでなく、地球のことも大切に考えている銀行です。

子供たちの環境への知識、興味のアンテナが高く、とても驚きました。我々にとても勉強になりました。また、三菱UFJ銀行はお金のことだけじゃない！を知ってもらえて、街で見かけたら、より身近に感じてもらえるとうれしいです。ありがとうございました。



先生からのコメント

子どもたちは、銀行の環境への取り組みを通して、「お金」も社会や地球を支える力になることを学びました。国語科の川柳づくりでは、学んだことをユーモアを交えて表現し、難しいテーマを自分の言葉で伝える力が育ちました。学びの楽しさを実感する時間となりました。



トークセッション

9月18日

「都市だからできるGreen Transformation」

9月19日

「小学生×企業から広がるGXの可能性」

コラボカフェ

森とともに生きるカカオを使った
オリジナルドリンク

トークセッション



東京大学
大学院 教授
小泉秀樹

渋谷駅前
エリアマネジメント
清水寛之

SWITCH
代表理事
佐藤マナ



Q：グリーンな渋谷を目指すために必要なことは？

小泉氏 CO2は、70%が都市から排出されており、都市の多くの人が気候変動の影響を受ける。IPCCが、都市をテーマにしたレポート作成しているように、都市のグリーン化は、近年多くの専門家が検討している領域である。渋谷未来デザインでは、まちづくりの全体構想を検討している。このようなハード視点と共に、エリマネさんの活動に代表されるようなソフト視点のまちづくりも重要。コミュニティづくりやこどもと大人のネットワークづくりなどであり、このFesも大きなコミュニティを生むと思う。

Q：今回の取り組みを通し、都市で環境アクションを起こすにはどうすればよいのか？

日立 「電気は無限ではない」、「電気は地方から届いている」この当たり前だと思っていたことがそうではなかったことに驚いた。地方があって都市がある、都市は地方に変えられていることを気づけてもらえた場でもあった。渋谷と地方がつながっていることを示すのも一つの方法だと思う。

明治 子どもたちは、環境問題をよく知っているが、見えない部分はわからない。カカオはカカオ産地の問題であり、チョコレートを見てもわからない。これを伝えるのは、私たちの役割だと思った。また、どうしたらよいかまで考えるのは難しい。遊びの中にまでサステナビリティを組み入れるような工夫が必要だと思った。「サステナブルでカッコよいハロウィン」、渋谷らしいと思う。

東急 子供たちは、気候変動、生物多様性は当たり前になっており、教育の大切さを感じた。都市には、時間軸と空間軸がある。渋谷の再開発が終わるころには、子どもたちは大人になり、経済や消費の中心となるので、大切なステークホルダーである（時間軸）。都市は、都市自身がメディアであり活用したいが、単に環境を発信しても伝わらない。今回の小学生たちは渋谷に住んでいるので、自分事としてとらえていたが、他から来た人にも自分事化していただけるような工夫が必要ではないか（空間軸）。

東急 渋谷の子どもたちが積極的に恐れず発言したことに感心した。大人は、正しさを考えてしまうが、子供たちは本質をとらえた発想であり先駆者になると期待できる。さらに、発言の中に環境の知識が組み込まれていた。移動手段の質問をしたとき、子どもたちは電車やバスではなく「走る」と答えた。走ることは体にも良く、環境とフィジカルの統合ができています。大人は、いつもトレードオフに悩まされているが、子どもたちの視点は参考になる。子供たちへの教育は、大人も学ぶ場になる。

NEC 家族の朝の話題は、天気予報。その情報をどう利用するかが大切な時代になっている。子供は、暑いのが当たり前になっており、天気予報を異なる視点で見ているかもしれない。気候変動や都市工学、都市設計など各分野で世界を引っ張っていく人材、また、自国のことだけではなく地球レベルで考えられる人材が必要。そういった人材を育てる教育も必要だと思う。

YKK AP 子供は素直。大人は、科学的なエビデンスがあっても固定化された観念があり変わらないが、子供は、科学をわからなくても、正しさをすぐ理解する。子供たちが経済の主役になるのは10年先だが、いずれ売り上げにつながる。サステナビリティの推進活動は、今年の売り上げには貢献できないが、将来の事業に貢献できると感じた。

登壇者からのMessage

小泉氏 オランダでは、生活の中にサステナビリティを学ぶ仕掛けができています。だれもが分かり、見える「形あるもの」が日常にあふれていれば動きが早くなるのではないかと。

清水氏 子供たちが色々なアイデアを持っていることに感心した。開発は大人目線、大人の都合で作られている面がある。将来を担う子供たちにとって何が必要なのか、子供の考えやアイデアを反映できるように、子供と大人が対話できる機会を創ることが大切だと感じた。

まとめ

子どもたちにとって、本物の人に会えることは大切だと思う。一生懸命やっている企業の人たちと子どもたちをつなぐ取り組みは、今後も継続していく。思いを持った人が多くいるのは東京の強みなので、皆さんにアドバイス頂きながらよりよいものにしていく。



トークセッション



渋谷区教育委員会
指導専事
市川勝利

東京大学
大学院 教授
安田仁奈

環境省
大臣官房
黒部一隆

SWITCH
代表理事
佐座マナ



Q.現在の地球の状況は？

安田氏 海水温は、気温と同様上昇しており、サンゴの白化、海藻生育地の砂漠化など、海洋生態系に影響を与えている。また二酸化炭素は海水の酸性化にもつながる。二酸化炭素の排出を抑制し気温の上昇を抑えないと、当り前の生き物がいなくなるだけでなく、人間社会に大きな影響を与えてしまう。

Q: 国の環境教育は？

黒部氏 一部調査では、アジアの諸国に比べて環境問題の改善が生活の質の改善につながると回答する割合が低いというデータもあり、環境教育が大切だと感じており、理科などの授業を通じた教育を行っている。しかし、知識だけでは行動に結びつかず、カーボンニュートラルの実現には限界がある。生活者の行動変容につながる教育が大切だと考えている。

安田氏 科学エビデンスはわかっている科学者も行動に移せていないことがある。ロジックではなく感情や体験が大切。

Q: 探究のあり方は？

伊藤氏 こどもの興味関心が広がる中で先生の専門性だけでは補えない部分を、専門の方に伴走頂くことはありがたい。更なる学びの意欲につながる。

黒部氏 他の授業、カリキュラムと関係づけることが大切で、文部科学省や学校教育の現場と連携しつつ、環境省としても協力したい。

安田氏 生き物好きな学生10人を担当しているが、9人が海に入ったことがないという。駿河湾に連れていくと感動していた。経験の喪失が問題で、自然に触れることがなくなれば、自然の大切さ、重要性が分からなくなる。現場に連れていき、五感で感じる事が大切。NPOとの連携を強めたらどうか？

Q: (日立) なぜ環境問題を解決しなければならないのかと問われたらどう答えたらよいか？

安田氏 環境問題の被害者は未来の人。彼らがなぜ負担を受けねばならないのか、というのが海外では主流の考え方。日本でも広げていかなければならない。

黒部氏 自然界は、弱肉強食ではなく利他共生。これが循環を生み出している。一人一人が「自然や世界中の人々に生かされている」と考える必要がある。

Q: (環境省/セブンイレブン) 環境教育に対する企業への期待、役割は？

伊藤氏 期待しかない。生徒に寄り添った授業をしていただいていることに感謝している。

安田氏 カギを握っているのは企業。普段気づかないことにも企業は取り組んでいる。その気づきを知ることだけでも勉強になる。企業が頑張っていることを小学生に直接伝えることの意義は大きい。

登壇者からのMessage

黒部氏 渋谷の企業様のお取り組みが世界のサステナビリティの最先端の現場と繋がっていると実感した。引き続き教育現場との連携を深め、世界の潮流を踏まえた環境の議論へと深まっていくことを期待したい。欧州の動向や、世界のリーダー企業を見据えてやっているということも発信していただき、ワールドワイド視点で環境の議論できるようになったら良い。

安田氏 環境教育は、地道だが絶対に効いてくる。無駄ではない。

安田氏 環境教育は工業、建設、農業など、全てに関わることであり、これからも力をいれて取り組む。

まとめ

皆さんのお話をお聞きし、こどもに考えて欲しい、国際人材が育ってほしいなど、共通の目的になっていることは心強い。環境をやっている人がかっこよくなり、皆から憧れるようになれば、環境意識の高い人が多く育つはず。渋谷という街を活用して推進していきたい。



～森とともに生きるカカオを使ったオリジナルドリンク～

イベントの2日間、カフェスペースを貸し切り、コラボカフェを実施。カカオの資源の循環アイテムをカフェエリアに展示したことで、カカオについて学びながらカカオドリンクを楽しめるスペースとなった。



4種類のオリジナルドリンクを限定販売

カカオを無駄なく使うために明治が開発したドリンク。カカオ豆から抽出した新素材とカカオ果汁を組み合わせた「カカオはフルーツ」ということを体験できるフルーティーなジュース。イベント期間限定で4種類のオリジナルカカオドリンクを販売。



- ・～森とともに生きるカカオ～のむチョコフロート
(バニラ、マンゴー) 648円 (税込)
- ・カカオビネガードリンク
(BEAT THE HEAT、OUR POSCA) 各540円 (税込)

4種類のオリジナルドリンクを限定販売

森を育てながらカカオを栽培するアグロフォレストリ農法の紹介とその農法で育ったカカオで作ったチョココレートの試食も行いました。



アグロフォレストリー農法

アグリカルチャー
(農業)

フォレストリー
(林業)

資源の循環アイテムの展示

チョコレートの素材として使うことのできないカカオの果肉やカカオ豆の皮「カカオハスク」から作られた、コースターやデニム生地などの素材として使われている。今まで廃棄されてきたカカオを生活インテリアやアパレルに応用したサンプルを展示。



渋谷区の小学校と企業の
合同環境文化祭



Thank you !

